

座長集約 テクニカルディスカッション

臓器別に考える ～虚血性脳疾患～

上尾中央総合病院
佐々木 健

第28回埼玉放射線学術大会テクニカルディスカッションは、従来のモダリティ別ではなく臓器別で行われた。これは、近年診療放射線技師も各種認定・専門技師制度が充実してきている中で、装置特性だけでなく画像読影、疾患鑑別まで求められているためである。

平成22年4月30日、厚労省医政発0430第1号「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」が通達された。ここでは、基本的な考え方として「各医療スタッフの専門性を活用して、患者・家族とともに質の高い医療を実現するためには、各医療スタッフがチームとして目的と情報を共有した上で、医師等による包括的指示を活用し、各医療スタッフの専門性に積極的に委ねるとともに、医療スタッフ間の連携・補完を一層進めることが重要である」としている。

診療放射線技師の役割として、放射線治療・検査・管理や画像検査などに関する業務が増大する中、当該業務の専門家として医療現場において果たし得る役割は大きなものとなっており、診療放

射線技師の積極的活用として、画像診断における読影の補助を行うこと、放射線検査等に関する説明・相談を行うことの2つが求められている。しかし、多くの施設ではモダリティ数や業務ローテーションの都合上、また各モダリティの高度化・専門化により、全てのモダリティを網羅し疾患鑑別を行うことが困難になってきている。そのような中、読影の補助を託された、我々診療放射線技師は従来のモダリティ別ではなく、臓器・疾患別に学んでいく事も重要であると考え、虚血性脳疾患に焦点を絞り、CT検査、MRI検査、核医学検査、超音波検査それぞれの診かたを講義していただいた。

本ディスカッションの内容は、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会会誌「埼玉放射線」紙面上で特集を組み、紹介する予定のため、発表後抄録は簡素化させていただくことをご容赦いただき、誌上特集をお待ちください。

ご理解のほどよろしくお願い致します。